

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	高強度鉄筋コンクリート構造小委員会	主 査 名：平石 久廣 就任年月：2004 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鉄筋コンクリート構造運営委員会)	委員長名：和田 章 主 査 名：林 静雄
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	目的：100N/mm <sup>2</sup> 以上の高強度コンクリートを用いた鉄筋コンクリート構造の健全な実用化・発展を促すために、調査・検討し、成果として「高強度コンクリートの技術の現状」(1991 年出版)の後継本を出す。 各年度活動計画： 初年度；Fc100N/mm <sup>2</sup> 以上のコンクリートを用いた R/C 部材及び建築物の調査・分析， 2 年度；初年度調査に基づき「報告書」作成，及び将来展望の検討， 3 年度；2 年度の補充， 4 年度；PD の開催と活動成果の出版	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 寺岡 勝(呉高専)，津田 和明(大林組)，和泉 信之(戸田建設)，柏崎 隆志(千葉大学)，木村 匡(都市再生機構)，木村 秀樹(竹中工務店)，熊谷 仁志(清水建設)，小室 努(大成建設)，勅使川原 正臣(名古屋大学)，西山 峰広(京都大学)，濱田 真(熊谷組)丸田 誠(鹿島建設)，渡邊 朋之(前田建設工業)，森本 敏幸(銭高組)	
設置 WG (WG 名：目的)	高強度鉄筋コンクリート構造の現状調査 WG 目的：小委員会の活動目的である Fc100N/mm <sup>2</sup> 以上の高強度コンクリートを用いた鉄筋コンクリート構造に関して小委員会委員と共同で，(1) 構造材料としての力学性状(コンクリート，鉄筋，付着)，(2) 梁，柱部材の性状，(3) 耐震壁の性状，(4) 柱・梁接合部及び骨組の性状，(5) 適用事例，について調査・検討し、報告書を作成する。	
2006 年度予算	830,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s9/">http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s9/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む) 5/22、8/29、10/10、12/12、2、6
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	設計基準強度 Fc60N/mm <sup>2</sup> 以上のコンクリートを用いた R/C 部材および建築物の調査・分析をすすめ、これらを元に検討した。報告書原稿素案を作成し、本小委員会の目標をほぼ 100% 達成した。
委員会活動の問題点・課題	特になし